

桂川だより

27年度 3月
後期学校評価特別号
京都市立桂川小学校
校長 奥田 直孝



後期学校評価アンケート結果より

日頃は、本校の学校教育にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。1月に実施いたしました学校評価アンケートの結果をお知らせいたします。この結果・考察を生かし、今後の教育活動をより充実したものにしていきたいと考えています。今後ともご協力、よろしくお願ひいたします。

~行きたくて行きたくてたまらなくなる学校=桂川校をめざして~

学校教育目標 「夢をもち 自ら考え 正しく判断し すすんで行動できる子どもの育成」

アンケート結果集計表

質問ごとの回答の平均値を最高7点のスコアで表示した表です。保護者・児童・教職員の3者を前期と後期で比較してみました。大数字は0.5以上上がった項目、網掛は0.5以上下がった項目です。保護者のスコアが高かった項目から順に載せています。

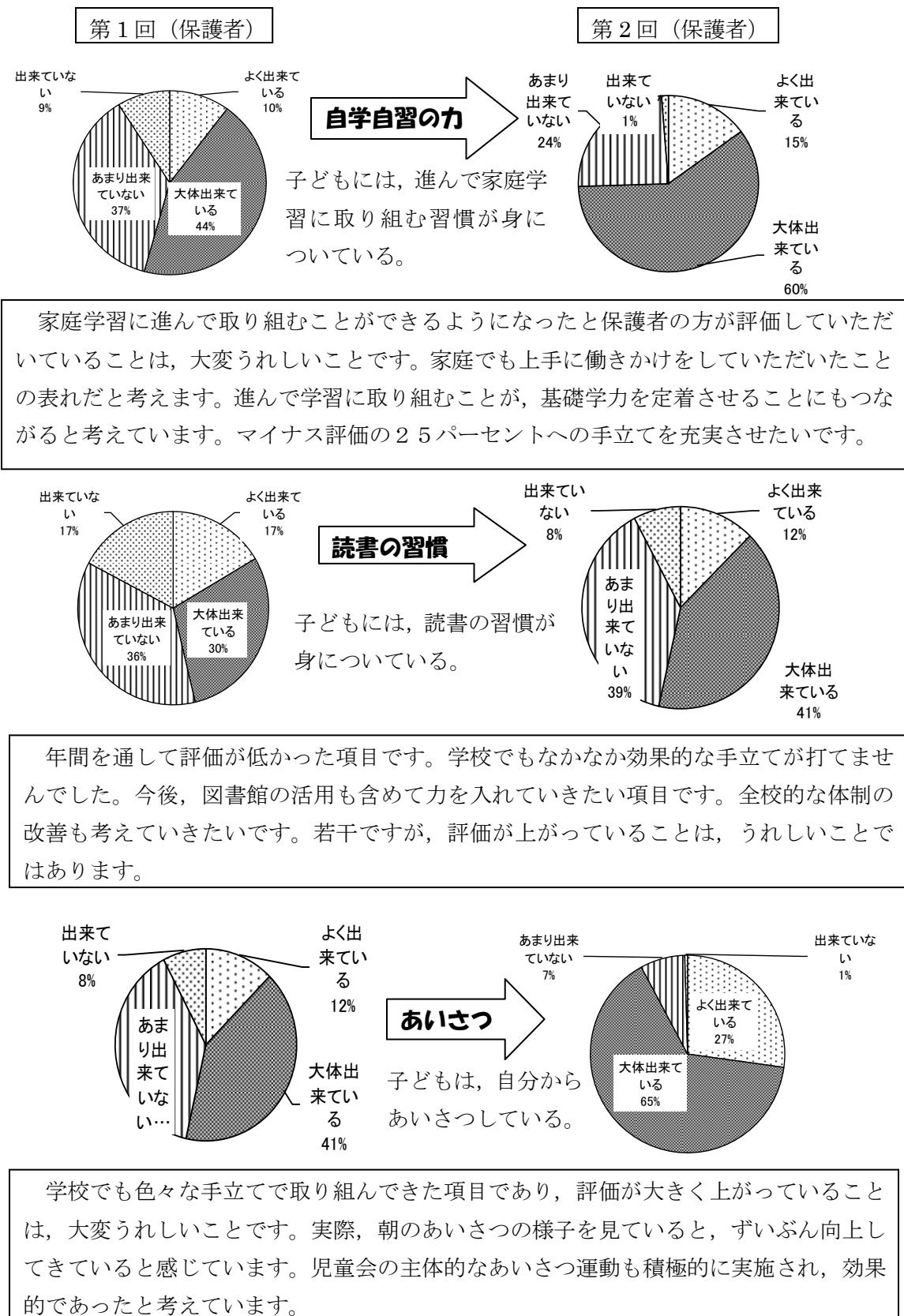
アンケート結果の概要

- 保護者、児童、教職員の前期からの変化をみると、児童の評価が全体に下がっているのが特徴的です。これは、頑張っていないというよりも、自己評価が厳しくなったととらえています。めあてをもって活動をする中で、周りの様子も見え、さらに高い目標に向かって頑張る証しではないかと考えます。
- 保護者の評価が上がった項目についてみると、「自分で判断する」「あいさつ」「すすんで勉強する」など、学校教育目標と大きくかかわっている内容であり、今年度の取組の成果が表れていると考えられ喜ばしいことです。教職員一同、学校教育目標を意識して取り組んできた結果であり、ご家庭でも声かけを繰り返していただいたであろう成果であると考えています。
- 反対に保護者の評価の下がった項目についてみると、「楽しく学校に通う」「基礎的な学力」「教育方針の伝達」など大切な項目であり、大変心痛い思いです。『一人一人を徹底的に大切にする』という教育理念の下、子ども一人一人の気持ちにさらに寄り添い、取組を見直すべきところは見直していきたいと考えます。基礎学力の定着については、学校全体で体制を見直し、理科の研究で培った学習活動の充実を、他教科へ反映させることについて、共通理解して取り組んでいきたいと考えます。児童・教職員共に、「生活科や理科の学習が楽しい」の項目が前期、後期ともに最高スコアであったということは、校内研究が学校の取組にとって大きなウェートを占めていることの表れであり、そこを切り口として取組を見直していきたいと考えます。



質問項目(保護者)	保護者		児童		教職員		質問項目(教職員)
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
子どもは、物事の良し悪しを自分で判断して行動できる。	5.2	6.1	5.7	5.6	4.8	5.3	子どもが、自分で考え、正しく判断し、それを行動に表すことができるよう支援を工夫している。
子どもと、学校のことなどを話している。	5.3	5.5	6	6			
子どものことについて担任や学校に気軽に相談できる。	5.2	5.5			4.5	4.6	子どものことについて、学校と家庭が情報共有している。
子どもは、自分からあいさつしている。	4.4	5.4	5.8	5.7	4.5	4.4	子どもが、自分からあいさつできるよう取組を工夫している。
子どもには、早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣が身についている。	5.3	5.4	5.4	5.3	4.3	4.4	子どもに、早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣が身につくよう働きかけている。
学校は、保護者や地域の方々と交流を深め、開かれた教育活動を進めている。	5.2	5.3			3.6	3.8	保護者や地域の方々と交流を深め、地域行事に参加している。
子どもは、楽しく学校に通っている。	6	5.2	6.2	6	5.4	5.4	全ての子どもが、楽しく学校生活を送れるよう環境づくりをしている。
子どもには思いやりの心が育っている。	5.3	5.2	5.5	5.4	4.8	4.8	互いに思いやり、支え合う学級づくりができる。
学校のホームページや学校だより、学年・学級だよりなどで学校の様子がわかる。	5.4	5.1			4.8	5.1	学校のホームページや学校だより、学年・学級だよりなどで学校の様子がわかるよう工夫している。
子どもは、自分から進んで学習している。	4.3	5	5.3	5	4.8	4.6	学習展開の工夫により、子どもは主体的に学習に取り組んでいる。
子どもには、進んで家庭学習に取り組む習慣が身についている。	4.1	4.8	5.8	5.7	4.3	4.2	家庭学習の工夫により、子どもには、進んで家庭学習に取り組む習慣が身についている。
子どもは、きまりや約束を守って生活している。	5	4.6	5.9	5.7	5	5.3	子どもが、きまりや約束を守って生活できるよう、桂川スタンダードの実践を進めている。
子どもは、自分の思いや考えを進んで話したり書いたりしている。	4.6	4.4	5.4	5.2	4.6	4.8	子どもは、自分の思いや考えを進んで話したり書いたりしている。
子どもには、基礎的な学力が身についている。	4.9	4.3	5.8	5.8	4.6	4.4	わかる授業の工夫と実践により、子どもに、基礎的な学力が身についている。
学校の教育方針や考えが保護者に伝わっている。	5.1	4.3			4.5	4.5	学校の教育方針や考えを保護者に伝えている。
子どもには、読書の習慣が身についている。	3.9	4.2	5	4.4	4.4	4	読書指導により、子どもには、読書の習慣が身についている。
せんせいと いろいろなことを はなせる。(児童)			5.4	5.3	3.9	4.2	子どもと、色々な話をする時間の確保ができる。
せいかつかや りかのがくしゅうは たのしい。(児童)			6.2	6.1	5.4	5.7	協同的な学びによる学習活動の充実により、子どもは、生活科や理科の学習を楽しんでいる。

前期（第1回）の学校評価の際に取り上げた3項目について、保護者の評価の変化について見てみました。



自由記述より（抜粋）

- ・ホームページがよく更新されているので、様子がわかりとても助かります。懇談でも、家とは違う学校での様子を色々と話していただけて、きちんと見ていただいていると安心しています。
- ・理科の研究の取組により、授業内容が充実していて子どもも理科が大好きだと言っています。他の教科についても桂川小ならではの授業を期待しております。
- ・体育館の改修後3足制になり、きれいに使用されるのを期待しています。
- ・今は共働きの家庭も多く、家庭内のことだけでも大変な日々だとは思うのですが、学校の子どもたちのために活動しようと思ってくださる保護者の方が、もっと増えるといいなあと思います。
- ・学年の先生の団結力を行事での子どもの姿から感じます。「人として」どのように考え方行動するのか、わが子と真剣に向き合って人権意識を育てていきたいと思っています。学校任せにするのではなく、家庭で責任を持って育てていくべきことが多々あると考えています。
- ・学年が上がるにつれて、勉強が難しくなって、差も出て、楽しくないなあと思っている子がいると思います。塾に行かなくても学力が上がるようには学校全体で努力して、それが子どもたちにも伝わればよいと思います。
- ・自宅が遠めなこともあります、帰ってくる時間が前後しやすく心配になるときがあります。
- ・読書習慣を身につけることは、すべての学力につながり、大切なことだと考えています。親も一緒に学ぶ姿勢をもつこと、宿題を楽しめる工夫を考えることが、子どもの学習への意欲につながると思いました。
- ・担任の先生が子ども一人一人に、できるだけ目を配って指導していただいているように思います。何かあればすぐに相談できるので安心しています。
- ・人数が多いので仕方ないもかもしれません、桂川ならではという独特的な活動がないように思います。何かあれば子どもたちはもっと活き活きとした学校生活を送れるのではないかでしょうか。

学校運営協議会理事会（2月23日）でいただいたご意見より

- ・中学校区としての評価も全体に上がっているとのことで、校区全体が落ち着いていることの表れである。
- ・絵本サークルの読み聞かせでの子どもたちの様子を見ていると、低学年でよく参加していた子どもは、高学年になっても興味深そうに聞きっている様子が見られ、うれしく感じている。
- ・下校の様子を見守っていると、自分からはなかなかあいさつしてこないが、声をかけるとほとんどの子どもがあいさつを返してくれるようになった。なかなか返事をしない子どもにも、「今日は寒いね。風邪ひいてないか。」などと話しかけると、返事を返してくれる。
- ・見守りに立っていると、「いつもありがとうございます。」と道端の草花を摘んで渡してくれる子がいて、うれしかった。地域の大人にも声をかけている。

